

「気象科学事典」の編集作業開始のお知らせと会員の皆様へのお願い

気象科学事典編集委員長 小倉 義光

日本気象学会理事会では、気象学会が編集する「気象科学事典」を東京書籍から出版することを決定し、編集委員を依頼して編集作業を開始しました。ここでこれまでの経過をお知らせするとともに、今後の原稿執筆に際しての会員各位のご協力をお願いします。

本年（1995年）初めに東京書籍から日本気象学会に対し、気象学会の編集による「気象科学事典」を出版したいという申し入れがありました。全国の理事が出席して本年5月に開催された第3回理事会でこの申し入れを審議した結果、積極的にこれに応ずることになりました。

気象に関する事典としては、すでに東京堂版「最新・気象の事典」（1994）、平凡社版「気象の事典」（1986）などが出版されています。それにもかかわらず、日本気象学会がこの決定を行ったのは、主として以下の理由からです。

①東京書籍から示された「気象科学事典」の編集方針は、「専門研究者よりは気象に関心のある一般の読者に重きを置いた百科事典または新語事典の程度の解説を目指し、特に、生活および環境との関連や日本の気象に関する記述を多くする」などであり、気象学会としてこの編集方針に賛同できること、

②理事会として気象学の普及・啓蒙に一層の努力をする必要があるとの認識があり、「教育と普及委員会」が現在編集作業を進めている「教養の気象学」（朝倉書店）の改訂版の刊行事業とともに、今回の企画は社会一般や学校教育の場で気象学会の普及活動を活発にする目的に合致するものであること、

③「気象科学事典」の場合、執筆者への原稿料や編集費を別にして、2%の印税が日本気象学会に支払われることから、財政的にも学会に寄与するものであること、

④東京書籍は大手の教科書出版社の1つであることから、学校関係に広い販路をもち、当社による東京大学物性研究所編集「物性科学事典」が出版間近かという実績があることなど、気象学会が編集する事典の出版社として適当と考えられること。

理事会の決定を受けて、常任理事会は下記の編集委員会を発足させました：

編集委員長 小倉義光

編集委員 大西晴夫（事務局兼務）、木村龍治、
立平良三、時岡達志、横山長之。

今後の編集作業等はすべてこの編集委員会に一任となり、編集作業の進捗状況は、適宜、常任理事会や理事会に報告されます。

編集委員会は10月4日に第1回会合を開き、編集作業を開始しました。そこで決められた「気象科学事典」の概要は、出版は2年半～3年後を目標、A5版600ページ程度、定価は5千円前後、1,200項目程度収録予定などです。項目数が限定されていることから、理学的な内容を中心として民俗・風俗に関するものは最低限に絞り、海洋についても大気に影響をおよぼす範囲のみとしました。解説の程度は理科クラブの高校生から気象予報士の受験者の参考となる程度までを目安とし、原則として式は入れないこと、1つの項目は最大2ページ（3,200字）とすることも目安として決定しました。この編集方針のもとで項目の選定作業中です。それが終わり次第、多くの会員の皆様に編集委員から執筆を依頼することになりますので、その節には御協力くださるようお願いいたします。

また、この事典について御意見・御要望などのある方は、日本気象学会事務局気付「気象科学事典」編集委員会宛お寄せください。